平成30年度　第１回大府市総合計画審議会要点記録

日　時　：平成30年10月31日（水）午後2時から午後4時30分まで

場　所　：大府市役所　地下001・002会議室

出 席　：

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 会　長 | 名古屋市立大学 | 三浦　哲司 |
| 副会長 | 工学院大学 | 遠藤　新 |
| 委　員 | 大府市社会福祉協議会 | 大山　尚雄 |
|  | 大府市体育協会 | 梶谷　修 |
|  | 大府市区長会 | 菊池　勇人 |
|  | 大府市医師団 | 児玉　真澄 |
|  | 大府市教育委員会 | 竹中　万里 |
|  | 大府市文化協会 | 舘内　三郎 |
|  | 大府市コミュニティ連絡協議会 | 山崎　千晶 |
|  | 大府市国際交流協会 | 山田　惠子 |
|  | あいち知多農業協同組合 | 稲葉　きみ子 |
|  | ボランティア団体(ふるさとガイドおおぶ) | 加藤　明美 |
|  | 連合愛知知多地域協議会 | 近藤　伸一 |
|  | 大府商工会議所 | 深谷　洋二 |
|  | 公募 | 三浦　太資 |
|  | 東海大府交通安全協会 | 三好　直人 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 行　政 | 市長 | 岡村　秀人 |
|  | 副市長 | 山内　健次 |
|  | 健康都市推進局長 | 林　正実 |
|  | 総務部長 | 久野　幸信 |
|  | 市民協働部長 | 丸山　青朗 |
|  | 福祉子ども部長 | 玉村　雅幸 |
|  | 健康文化部長 | 今村　昌彦 |
|  | 都市整備部長 | 近藤　晃司 |
|  | 建設部長 | 長谷川　重仁 |
|  | 産業振興部長 | 木學　貞夫 |
|  | 水道部長 | 杉山　鐘辞 |
|  | 教育部長 | 内藤　郁夫 |
|  | 議会事務局長 | 末廣　昭一 |
|  | 消防長 | 上山　治人 |
|  | 地域福祉課長（健康・福祉専門部会長） | 近藤　恭史 |
|  | 環境課長（地域・協働専門部会長） | 猪飼　健祐 |
|  | 建築住宅課長（安心・安全専門部会長） | 小田原　幸生 |
|  | 都市計画課長（緑化・道路・上下水道専門部会長） | 深谷　一紀 |
|  | 保育課長（教育・子ども専門部会長） | 内藤　尚美 |
|  | 農政課長（産業・にぎわい専門部会長） | 寺島　晴彦 |
|  | 秘書人事課長（行政経営専門部会長） | 白濵　久 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 事務局 | 企画政策部長 | 新美　光良 |
|  | 企画政策課長 | 福島　智宏 |
|  | 企画政策課企画係長 | 川出　陽一 |
|  | 企画政策課企画係主任 | 鈴木　康幸 |
|  | 企画政策課企画係主事 | 池田　海童 |

（合計42名、敬称略）

傍聴人　：なし

議　事

１　委嘱状の交付

２　市長あいさつ

３　会長及び副会長の互選

４　諮問書の交付（資料１）

５　大府のまちづくりの現状について（資料２）

６　策定方針、策定経過及び審議会の役割について（資料３から資料６）

７　序論及び基本構想案、総合計画体系図案について（資料7及び資料８）

【議事６及び７についての質疑】

（委員）

「健康都市」ということが、今まで漠然としていたが、今回、「ひと」、「まち」、「みらい」の３つの柱という形で、とても分かりやすくていいと思う。

ただ気になる表現として、16ページの政策目標１、「こころもからだも一生元気でいられるまち」という部分の「いられる」という言葉に違和感がある。「元気で過ごせる」とか、「暮らせる」と言った方が他との関係もすっきりするのではないか。また敢えて「一生」というのも、要らないという感想を持った。

（事務局）

政策目標は、まちづくり懇話会でも練ってきた内容だが、ご意見いただいたので、今後も専門部会の方で議題にさせていただき、修正できる部分があれば対応していきたい。

（委員）

「みらいの健康」の着眼はいいと思うが、具体的な展開は大変だと思う。新しい発想も必要だろうが、知恵を絞ってやっていただければと思う。

資料２の自然増加率、若年層の比率など、他都市に比べ良い状況にあると思うが、なぜそうなっているのか、なぜこうなってきたのかという説明があると、次にどうしたらいいか、分かってくると思う。

（事務局）

人口増の要因については、これだというのは難しい。行政面では子育て施策、特に子ども医療費の無償化を県内の市では最初に行っており、そのあたりかと考えられる。刈谷市などからの転入者があることや、土地の価格面で刈谷市などと比べて低いことがあるかもしれない。また、名古屋に近いということも影響していると考えられる。

（委員）

「まちの健康」にかかってくるかもしれないが、最近道路渋滞がひどいと感じている。道路インフラは、「まちの健康」で言うと、血管みたいなもので、動脈硬化に疾患しているように思える。

（会長）

都市マスでも、人口が増えたら増えた場合の問題があり、これからの議題になるのかもしれない。

（委員）

目標４、目標６の中に、新駅について書かれているが、用地確保はされているのか。その後、どうしていくのか、議論が出ているのかどうかお聞きしたい。

（都市計画課長）

新駅については、まちづくりの施策で取り上げてきた。ＪＲ東海と協議している状況である。今後、高齢化が進むにつれて、公共交通である循環バスを走らせ、タクシーも公共交通だが、駅から人が活動的に動くということも必要と思っているので、新駅構想は引き続き残していくことになるだろう。今後の公共交通事業に合わせ、社会情勢を踏まえて、位置付けて展開していくと考えている。関係機関との協議を継続しながら、やっていきたい。

（委員）

取り上げ方は大きくなさそうだが、リニアも踏まえ、大府市の位置付けを高めるため、人口増にしていくためには、最も手近なツールだと個人的には思う。ご議論があったかどうかだけ確認したかった。

（都市計画課長）

大府市は「健康都市」で進めてきたが、ウェルネスバレーをみてもそうだが、「健康」で進めてきて、色々な面で健康でないといけないということで、全体的に焦点がぼけている気がする。大府をどういう町にしたいのか、個性のあるまちにしていくのか、今まで通り、すべてが健康のまちでもいいが、これから生き残っていくための個性が必要だと思う。

（事務局）

目標６にウェルネスバレーが入っている。全体的には、にぎわいづくり、産業の発展、将来のイメージという部分もある。健康という概念のもとに、もっと個性のあるものを、施策目標としていく。また、キャッチフレーズについても、まだこれからの検討で、意見をもらいたいと思う。

（委員）

2030年における計画人口10万人というのは高いのか、低いのか。

（事務局）

このまま行けば、10万人にはなると思う。大事なのは、10万人になっても、インフラ面、ソフト面について、皆が健康でいられるまちを作っていかなくてはいけないということで、決して高い目標ではない。しかし、このままでは、他に住みやすいまちができてくれば、そちらに流れてしまうという懸念も持っている。そういうことも含めて、今後確保したい値としている。

（委員）

健康を、これまでも、これからも大事にしていくのはいいが、７区分のうち、産業とＳＤＧｓには健康の話はあるようだが、それ以外の、例えば、災害リスクのような所にはない。ライフスタイル、住民意識といった所には健康の話はありそうだが、大府市としての健康の理念が示されていないのではないか。そのあたりを深堀していくと、基本構想の中の具体性につながるのだと思う。

（事務局）

文章の肉付けについては、今後も引き続きしていきたいと思っている。修正・変更した部分についても、議会あるいは第4回の全体会等、適宜ご報告していきたいと思う。

（委員）

ＷＨＯの健康の定義の中にソーシャルが入っていると思う。それが入っているという点から、わりと結びついているのではと思うが、いかがか。

（委員）

指摘のあった観点から、大府の現状認識をもっと明確にしていくことが大事だと思う。

（委員）

第1次から第5次まで、第5次計画の目標に対する達成度やそれを踏まえた結果、第6次へどう反映されているのかが見えない。第5次の反省からどうなのか、現在の実績に対する施策目標等の達成度について、どの程度反映されているのか、考え方を教えて欲しい。

（事務局）

第5次総合計画の目標値の評価など、資料４策定フローの中で、庁内検討の一番上、昨年10月から、部会を作り、第5次の検証をした。これをベースに、第6次総合計画に必要な取組を抽出し、その後、市民の方々に委員に入っていただいて検討している。次回以降、基本計画審議時にご確認いただけると思う。

（委員）

外国人が増加してきて、外国への行き来も増え、今後、外国人が住むという面が課題になってくるのか。

（会長）

多文化共生についても、色々な面で影響が出てくると思うが、例えば資料８、境界領域のような部分、買い物難民の問題、高齢者の買い物場所、福祉、商業、公共交通等々については、今後の検討課題になると思う。

（事務局）

部会ベースで検討中だが、横断的な内容の調整は事務局もやらねばと思っている。

（委員）

体系図はきれいにまとめられているが、大府市だけでできること、広域的にやること、その点、どのように考えているか。大府だけで解決できないことはたくさんあると思う。

（事務局）

介護、ウェルネスバレーなど、広域行政で進めているものは既にある。今後は消防や危機管理の面、災害連携など、そのあたりが課題だと思う。それ以外という点で、人に関わってくるもの、インフラ面、産業振興などが関わってくると思う。そういう連携で、行政経営について、施設の有効活用については、東海市に劇場があるから大府市には必要ないとか、長久手市・日進市はそういう考え方を取り入れていると聞いている。名古屋市にある施設で、そこに集約できる大きな施設があるなら、それと同じ施設は必要ないという広域的な活用もあると思う。整理してまとめる。

（委員）

これからどういう体制で施策を進めていくのか、企業もぶつかればＭ＆Ａをしたりする。他の近隣の行政との連携になるのではと思う。そういう体制を作ることが、第6次、第7次と繋げていき、次の世代につなげる、そんな流れになるのではと思う。

（会長）

国でも行政連携はこれまで以上に推奨している。資料４の策定事項の国、県における政策動向に関わってくるが、それらを踏まえながら、今後の作業を進めて行くことが必要である。

大府市の特徴として、昼夜間人口の問題もある。総合計画をどうしていくのか、様々な角度から幅広く検討していきたいと思う。

（事務局）

本日頂いた意見は、今後の計画事項の検討に反映させていただく。

８　その他

・今後の予定について

・次回会議室の変更

閉会